



室っ子だより

～ 私たちの学校を私たちが創る ～

文責 校長

日頃より本校教育活動への御理解・御協力ありがとうございます。天候が心配された運動会も晴れ渡る青空の下、子どもたち一人ひとりが協力しながら自分たちの運動会を創ることができました。日々、お子様への温かいお声かけ、朝の見守り、環境整備等々、保護者、地域の方々の御支援ありがとうございます。6月の本校の取組について御紹介いたします。

3年2組大研（授業研究）。全員参加の授業づくり！



6月2日4時間目3年2組で本校全ての職員が参観する授業研究が行われました。算数科「たし算とひき算の筆算」の授業。計算しやすい数のまとまりに着目し、計算の順序を工夫して計算の仕方を考えることが主な学習活動です。子どもたち一人ひとりがどのように考えたのか。より簡単・正確にもとめる工夫はどんな工夫か？根拠を明らかに思考・表現する子どもたちの姿がたくさんあった素敵な授業でした。授業研究が専門の北海道教育大学の宮原先生、尚綱大学の佐竹先生を講師に招き、事後研究会も実施しました。子どもにとって「学び」が成立した瞬間は、どこか。学びを成立させるには教師のどのような指導が必要なのか、聴きあう関係づくりのポイント

は何か等、具体的にお話しいただきました。子どもたちの資質・能力を高める授業、その実践的指導力を先生同士が高め合うことは、とても大切なことです。このような授業研究等、実践的指導力向上に向けた校内研修を年間通じて実施しています。（研究成果を11月6日（金）に公開します。）

授業研究部では、共通実践事項を以下のとおり設定し、実践研究に取り組んでいます。6月は、小研月間。全ての先生が自ら授業を公開し、協働で振り返る中で実践的指導力を高めるため自己研鑽に励んでいます。

視点 1: 気付く力を高めるための工夫

- 1 解決すべき課題やくらしとのつながりに気付かせるための工夫
 - ・課題提示を工夫し、児童自ら問いを見いだせるようにする。
 - ・学びの活用場面を考えさせ、生活とのつながりに目を向けられるようにする。

視点 2: つながる力を高めるための工夫

- 1 思いや考えを聴き合い、受け止めるための工夫
 - ・「分からない」ことを共有し、対話を通してともに解決へ向かう授業づくりを行う。
 - ・相手の話を最後まで聴くことを大切にしたい対話活動を取り入れる。

視点 3: 行動する力を高めるための工夫

- 1 つながりを意識させる振り返りの工夫
 - ・学びの意味や価値を振り返り、次の行動を見通せるようにする。

6月人権月間～ともに生きるプロジェクト 第2弾～ 「Don't judge a book by its cover.」

6月15日大津町教育の日。アメリカフロリダ州に生まれ、30年近く日本で暮らしてきた講師をお招きして、本校の全児童に向けて「ともに生きる」ための大切なことについてお話いただきました。

日本で暮らす中で出会った畑作業していたおばあちゃん。アメリカ生まれの自分に声をかけて、度々「お茶とお漬物」をいただきながら話をしてくれたことに感謝している。髪、肌、目の色が異なる。しかし、見た目で判断しないこと、相手と積極的に話をし、相手を理解しようとする大切さを「Don't judge a book by its cover.」の言葉に込めて伝えていただきました。心に響く大切なお話を誠にありがとうございました。続く・・・。

